

# 防災活動の手引き

一般向けプログラム

学校向けプログラム

いつ起こるかもしれない水害や土砂災害から自分の命と地域を守るため、地元地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指すための防災活動の手引きを作成しました。この手引きを、自治体等の担当者、地域の防災リーダーが実際の取り組みを実施する際の一助として、是非ご活用ください。

[この手引きのねらい]

地域単位での  
自発的取組み  
の促進

▶ 地域防災力の向上

[防災活動の手引きの内容] この手引きは、次のような構成となっています。

① 第1章 プログラムの構成

② 第2章 プログラム実施の流れ

③ 第3章 活動プログラムメニュー

④ 第4章 活動のアピール

⑤ 第5章 活動を円滑に進めるための情報・資料  
…講師等の問合せ先、学習資料の問合せ先など

※プログラムには、実施に必要なパワーポイント等の資料が付きまます。



## ■一般向けプログラム

## ■学校向けプログラム

	プロセスと目標	取り組み例	プロセスと目標	取り組み例
個人 ↓ 組織	<b>導入段階</b> ・1人ひとりが危機意識を持つ	・災害足跡見学会 ・災害伝承座談会 ・DVD視聴	<b>導入段階</b> ・災害・防災について聞く・見る (小学校高学年～高校生)	・出前講座 ・資料輪読 ・DVD視聴
	<b>発展段階</b> ・個人から地域への 取組み主体の発展 ・地域リーダーの育成	・防災有識者による講演会 ・地域防災講習会	<b>発展段階</b> ・学習として実施し、 災害・防災を体験する (小学校高学年～高校生)	・災害足跡学習会 ・工事現場見学会
	<b>自発段階</b> ・地域での組織化の定着 ・地域の恒例事業等での 継続的な活用	・集落防災マップづくり ・集落防災訓練	<b>自発段階</b> ・防災について考え行動する (高校生レベル)	・通学路の防災マップ ・自然と災害の研究学習 ・活動研究発表会

## [プログラムの内容]

この手引きでは、災害足跡見学会、災害伝承座談会、集落防災マップづくり…など、伊那谷での地域の防災力を向上するために効果的と考えられるプログラムについて、詳細な手法をまとめています。

「どのように進行したらよいのか?」「何を準備したらよいのか?」「どこに協力を要請するとよいのか?」「どうやって地域のモチベーションを維持するのか?」…などにお応えできる資料を提供いたします。

**◆プログラム概要**  
プログラム実施の際の概要を掲げています。

プログラム例（一般向け）

導入段階 **災害伝承座談会**

---


**プログラム概要**

三六災害の被災者や技術者、有識者から、自分たちの住む地区や周辺のごく身近な地域で発生した災害の話聞き、意見交換します。

**[ねらい]**

- ・参加者に、自分の身の回りや家族に降りそそぐかもしれない、という緊迫感を得ていただきます。
- ・地域での発展的な取り組みにつながるよう、「意識の高い個人」を地域に増やします。

**【実施対象】** 地域住民（30人程度）  
**【所要時間】** 2時間程度  
**【実施場所】** 地区の集会場



**◆実施対象**  
プログラム実施対象と人数の目安です。

**◆所要時間**  
プログラム実施の所要時間の目安です。

**◆実施場所**

**◆ねらい**  
期待される効果を掲げています。

**■準備物（運営者）**：参加者名簿、名札、三六災害パネル、説明資料、プレゼン用機材（液晶プロジェクター、ノートPC、スクリーン）、記録用デジカメ

**■プログラムの流れ**

活動内容		ポイント
導入	受付	・会場にはパネルを設置する
	開会	・開催主旨、講師・語り部の方を紹介する
内容	災害の一般説明 ◆災害一般知識の共有 三六災害をはじめ、天竜川上流域で発生した災害の概要（被災歴、被災地、被害状況等）とそのメカニズムについて説明します。	・災害一般知識の説明は、防災技術者、防災有識者に「講師」として話題提供いただくことで、深い理解を得ることが期待できます。
	被災体験の語り聞き ◆語り聞き 実際に被災された方のお話をみんなで聞きます。	・被災体験がより生々しく伝わるよう、その当時の画像や映像などをスクリーンを通してみていただけるよう、語り部の方のサポートをします。
	◆意見交換 災害体験者－講師－参加者で意見交換をします。	・話を聞くことだけに留めず、語ってくださった被災者に質問を投げかけることで、より深く、災害の深刻さを共有できます。 ・防災技術者または有識者に出席いただいている場合、被災者の話の一部を科学的に補足説明いただくことで、参加者に深い理解を得ていただくことができます。
まとめ	ふりかえり ・感想発表 ・今後、自分がどのように行動するか発表 ・アンケート	・参加者が自ら言葉を発表することで自らの意識付けになることと、情報提供した被災者も「伝えた」実感を得ることができます。
	閉会	・今後の予定などを伝え、閉会します。

※座談会は、市町村防災担当者、または、地域リーダーなどが進行することでスムーズに運営できます。

**◆準備物**  
会場準備や、参加者に持参いただくものをリストアップしています。

**◆プログラムの流れ**  
実際におこなう活動の内容と流れを掲載しています。

**◆ポイント**  
そのプログラムを実行する際のポイントを紹介します。  
※実際のプログラム集では、イメージがわくよう、写真を多用します。



笑顔、きらきら、天竜川。

**天竜川上流河川事務所**

〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10  
e-mail: tenjyosabochosa@cbr.mlit.go.jp

TEL: 0265-81-6417 FAX: 0265-81-6420  
URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/